

病態制御薬理学研究室

Clinical Pharmacology

教授	笹岡 利安	Toshiyasu Sasaoka
准教授	恒枝 宏史	Hiroshi Tsuneki
講師	和田 努	Tsutomu Wada

◆ 原 著

- 1) Asai S, Ohta A, Kato H, Sada Y, Nagai Y, Kondo A, Sasaoka T, Tanaka Y. Effect of sitagliptin on glycemic control and beta cell function in Japanese patients given basal-supported oral therapy for type 2 diabetes. *Endocr J.* 2014; 61: 1213-20.

◆ 総 説

- 1) 笹岡利安, 和田 努, 恒枝宏史. インスリン抵抗性と認知機能. *日本臨牀.* 2014 ; 72 : 633-40.
- 2) 笹岡利安. 糖尿病療養指導ガイドブック 2014. 日本糖尿病療養指導士認定機構編. 大阪: メディカルレビュー社; 2014. V章, 糖尿病の基本治療と療養指導 3. 薬物療法 (経口血糖降下薬); p.65-70.
- 3) 鮫島 梓*, 米澤理可, 和田 努, 恒枝宏史, 笹岡利安, 齋藤 滋. 閉経肥満モデルマウスを用いた糖脂質代謝とうつ症状に対するエストロゲンの効果. *産婦人科の実際.* 2014 ; 63 : 1006-8.

◆ 学会報告

- 1) Tsuneki H, Tokai E, Takahashi K, Asaoka T, Wada T, Sasaoka T. Wake-active orexin system prevents hepatic insulin resistance via bidirectional regulation of hepatic glucose production in mice. *Keystone Symposia: Challenges and Opportunities in Diabetes Research and treatment*; 2014 Jan 12-17; Vancouver.
- 2) Nakamura Y*, Wada T, Aruga Y, Ishikawa A, Tsuneki H, Sasaoka T. Molecular mechanism of anti-inflammatory actions of eplerenone in macrophage. *The 7th International Aldosterone Forum in Japan*; 2014 May 31; Yokohama.
- 3) Sasaoka T, Tokai E, Takahashi K, Asaoka T, Wada T, Tsuneki H. Hypothalamic orexin prevents hepatic insulin resistance via bidirectional regulation of autonomic nervous system in mice. *American Diabetes Association (ADA) 74th Scientific Sessions*; 2014 June 13-17; San Francisco.
- 4) Onogi Y*, Wada T, Kamiya C, Inata K, Ishii Y, Sasahara M, Tsuneki H, Sasaoka T. Inhibition of PDGF receptor improves insulin resistance by suppression of chronic inflammation via reduction of MCP1 expression in the adipose tissue of type 2 diabetes mice. *American Diabetes Association (ADA) 74th Scientific Sessions*; 2014 June 13-17; San Francisco.
- 5) Tsuneki H, Wada T, Sasaoka T. Orexin regulates glucose metabolism under the control of circadian system. *Tokyo Translational Therapeutics Meeting: Homeodynamics in Clocks, Sleep and Metabolism*; 2014 Sep 24; Tokyo.
- 6) Tsuneki H. Hypothalamic orexin as a potential chronotherapeutic target for diabetes. *The 13th Japan-Korea Diabetic Nephropathy Seminer*; 2014 Sep 25-28; Kanazawa.
- 7) Wada T. Blockade of PDGF receptors ameliorates adipocyte dysfunctions and improves glucose metabolisms in diabetic db/db mice. *The 13th Japan-Korea Diabetic Nephropathy Seminer*; 2014 Sep 25-28; Kanazawa.
- 8) Tsuneki H, Wada T, Sasaoka T. Nicotinic regulation of glucose metabolism via hypothalamic orexin system. *International Society of Addiction Medicine (ISAM) World Congress in 2014*; 2014 Oct 2-6; Yokohama.
- 9) 高原理行, 市原克則, 和田 努, 恒枝宏史, 笹岡利安, 広野修一, 梅田知伸, 田中信忠, 合田浩明, 豊岡尚樹. 新規インスリン抵抗性改善に基づく2型糖尿病治療薬の創製. *日本薬学会第134年会*; 2014 Mar 27-30; 熊本.
- 10) 笹岡利安, 東海絵美, 高橋佳佑, 浅岡健広, 和田 努, 恒枝宏史. 2型糖尿病マウスでの視床下部オレキシンによる糖代謝改善効果. *第87回日本内分泌学会学術総会*; 2014 Apr 24-26; 福岡.
- 11) 恒枝宏史, 東海絵美, 大久保教介, 鈴木 敬, 関 貴之, 和田 努, 笹岡利安. アンジオテンシンIIによる培養血管内皮細胞のインスリン抵抗性に対するコエンザム Q₁₀の改善効果. *第57回日本糖尿病学会年次学術集会*; 2014 May 22-24; 大阪.
- 12) 中村勇斗*, 和田 努, 有賀裕輔, 石川明香里, 恒枝宏史, 笹岡利安. 選択的 Mineralocorticoid Receptor (MR) 阻害剤による抗炎症作用の分子メカニズムの解明. *第57回日本糖尿病学会年次学術集会*; 2014 May 22-24; 大阪.
- 13) 小野木康弘*, 和田 努, 神谷知江, 稲田健人, 石井陽子, 笹原正清, 恒枝宏史, 笹岡利安. PDGF 受容体活性阻害

による2型糖尿病マウスのインスリン感受性改善機構. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会; 2014 May 22-24; 大阪.

- 14) 永田貴嗣*, 恒枝宏史, 東海絵美, 藤田樹生, 山口 薫, 和田 努, 笹岡利安. ニコチンは視床下部オレキシン神経系を介してマウス肝糖新生を抑制する. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会; 2014 May 22-24; 大阪.
- 15) 浅岡健広*, 恒枝宏史, 東海絵美, 高橋佳佑, 中村優也, 和田 努, 笹岡利安. 視床下部オレキシンによるマウス肝糖新生の概日リズムの調節機構の解析. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会; 2014 May 22-24; 大阪.
- 16) 鮫島 梓*, 和田 努, 澤川香苗, 森田真裕子, 米澤理可, 恒枝宏史, 笹岡利安, 齋藤 滋. 閉経肥満モデルマウスのエネルギー代謝, うつ, 不安に対するエストロゲン投与効果の検討. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会; 2014 May 22-24; 大阪.
- 17) 和田 努, 中村勇斗, 石川明香里, 有賀裕輔, 宮下佑介, 佐々木元大, 石井陽子, 笹原正清, 恒枝宏史, 笹岡利安. 肝特異的 SREBP1c 過剰発現マウスを用いた NASH モデルマウスに対する, 鉍質コルチコイド受容体阻害剤の NASH 病態制御機構. 第1回肝臓と糖尿病・代謝研究会; 2014 Jul 4; 東京.
- 18) 恒枝宏史, 和田 努, 笹岡利安. 視床下部オレキシンによる糖代謝リズム調節を介したインスリン抵抗性の治療戦略. 生体機能と創薬シンポジウム 2014; 2014 Aug 28-29; 大阪.
- 19) 小野木康弘*, 和田 努, 神谷知江, 稲田健人, 石井陽子, 笹原正清, 恒枝宏史, 笹岡利安. 肥満に伴う耐糖能障害およびインスリン抵抗性進展における PDGF の関与. 第13回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォラム 2014; 2014 Sep 20-21; 富山.
- 20) 神谷知江*, 和田 努, 小野木康弘, 稲田健人, 山本誠士, 石井陽子, 笹原正清, 恒枝宏史, 笹岡利安. 肥満に伴う脂肪組織の慢性炎症と糖代謝に対する PDGF シグナルの関与の検討. 第14回日本内分泌学会北陸支部学術集会; 2014 Nov 9; 金沢.
- 21) 稲田健人*, 和田 努, 小野木康弘, 神谷知江, 恒枝宏史, 石井陽子, 笹原正清, 笹岡利安. 脳神経特異的 PDGF シグナル遮断による肥満および糖脂質代謝への影響の解明. 日本薬学会北陸支部第126回例会; 2014 Nov 16; 金沢.
- 22) 小野木康弘*, 和田 努, 神谷知江, 稲田健人, 山本誠士, 石井陽子, 恒枝宏史, 笹原正清, 笹岡利安. PDGF を介した脂肪組織肥大化およびインスリン抵抗性進展機構の解明. 日本薬学会北陸支部第126回例会; 2014 Nov 16; 金沢.
- 23) 恒枝宏史, 永田貴嗣, 藤田樹生, 和田 努, 笹岡利安. ニコチン作用から見た視床下部オレキシン神経系を介する糖代謝リズム制御の意義. 第26回分子糖尿病学シンポジウム; 2014 Dec 6; 高知.

◆ その他

- 1) 笹岡利安. 薬剤師によるフィジカルアセスメントの基礎. 認定薬剤師研修「実習研修」; 2014 Jan 26; 富山. (cf. 一般社団法人イオン・ハピコム人材総合研修機構主催)
- 2) 中村真人, 金 主賢, 中路 正, 市田路子, 廣野恵一, 笹原正清, 黒田 敏, 笹岡利安, 山本誠士. 「生命を吹き込む医工学技術と医学の融合」の拠点形成. 富山大学学際交流会; 2014 Mar 10; 富山.
- 3) 笹原正清, 黒田 敏, 笹岡利安, 山本誠士. 血管に付随する幹細胞を標的とする医療の開発. 富山大学学際交流会; 2014 Mar 10; 富山.
- 4) 恒枝宏史, 和田 努, 笹岡利安. 中枢性の糖代謝リズム制御機構に対するニコチンの影響. 第29回喫煙科学研究財団平成25年度助成研究発表会; 2014 Jul 15; 東京.
- 5) 笹岡利安. オレキシンによる生体リズム調節機構を介した新しい糖尿病の治療戦略. Diabetes Scientific Meeting; 2014 Jul 17; 金沢.
- 6) 恒枝宏史. 生体リズム調節機構を介した新しい糖尿病の治療戦略. 富山薬窓会平成26年度富山・石川合同支部講演会; 2014 Jul 26; 富山.
- 7) 恒枝宏史. 平成26年度富山大学教員免許状更新講習〜くすりの効き方〜; 2014 Aug 7; 富山.
- 8) 笹岡利安, 恒枝宏史. 体内リズムが糖尿病を防ぐ機構解明. 富山大学プレスリリース; 2014 Sep 16; 富山.
- 9) 笹岡利安. アルドステロン阻害によるインスリン抵抗性の治療戦略. 金沢医科大学大学院医学研究セミナー; 2014 Oct 1; 金沢.
- 10) 笹岡利安. オレキシンによる糖代謝異常の新規治療戦略. 第11回東北糖尿病トータルケア研究会; 2014 Oct 17; 仙台.
- 11) 笹岡利安. 高齢者社会を見据えた糖尿病の治療戦略. Diabetes Brushup Seminar; 2014 Nov 28; 松本.
- 12) 恒枝宏史. オレキシンの代謝リズム調節に基づく新しい糖尿病の治療戦略. 富山大学東西医薬学融合若手ネットワ

ーキング第一回ワークショップ；2014 Nov 28；富山.

- 13) 笹岡利安, 和田 努, 恒枝宏史. 視床下部ペプチドオレキシンによる時間依存的糖代謝改善効果. 第 89 回北陸糖尿病集談会；2014 Nov 29；金沢.